

令和3年度

施政方針



まず、昨年、全世界に広がった新型コロナウイルス感染症の流行は、未だ収束の兆しが見えない状況が続いています。さらに変異種が増加し、全国各地で感染が拡大して緊急事態宣言が出されるなど先行きが見えない不安な日々が続いています。

市としても、感染拡大に歯止めをかけ、市民の皆様が安心して生活できる環境をつくるため、5月6日には高齢者施設入所者及び従事者へのワクチン接種を開始しており、最優先の事業として取り組んでおります。

75歳以上の高齢者を対象としたワクチン接種の予約では、コールセンターの電話がつながらないなど混乱があり、ご迷惑とご心配をおかけしました。深くお詫び申し上げます。何分、これまでにな

連続ではありませんが、希望する全ての方が早期に安心してワクチン接種を受けられよう全力で取り組んでいるところでありますので、市民の皆様には、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて、本年4月の市長選挙におきまして多くの市民の皆様のご支持をいただき、引き続き市政の重責を担うこととなりました。改めてその責任の重さに身の引き締まる思いであります。

3期目におきましても、市長就任以来取り組んでまいりました口腔ケア事業、特に歯周病対策を強化し、さらに生涯現役社会づくり、健康づくりのために脳の健康、筋力・免疫力アップの取り組みや災害に強いまちづくりなど「いのちを守る」取り組みを進めてまいります。

さらに、デジタル化が急速に進むなか、IT・ICTを活用することで地方への人や企業の流れができてきました。IT企業や企業の誘致や人材の確保、育成の取り組み、GIGAスクール構想を推進するための指導者の育成や環境整備、国際化に対応するための多文化共生のまちづくりなど「まち・ひとを創る」取り組みを進めてまいります。

また、人口減少が進み、地域では空き

家が増加して地域の活力が低下しています。人口減少、高齢化を前提として将来を見据えた施策に取り組み、豊かな自然の恵みである農林水産業を振興し、伝統文化に誇りをもち活躍するまちを目指すなど「市の活力を増す」取り組みを進めてまいります。

こうした方針のもとに、これまで2期8年間の取り組みを踏まえつつ効率的な財政運営を行い、市民サービスの維持、「安全・安心で住みよいまち豊前」のため、市政運営に全力を尽くしてまいります。

次に、本年度の主要な取り組みについて申し上げます。

国際化の進展

本年3月、国際化に対応するため市役所に多文化共生コーディネーターとして地域おこし協力隊を採用しました。今後は市内在住の外国人の生活支援、相談、外国人と市民との交流を図る企画などの業務にあたります。

また、ボランティアの方々にご支援、ご協力いただきながら外国人が理解しや

すい「やさしい日本語」の取り組みを広げ、外国人が安心して暮らせる豊前市づくりを目指します。

安全・安心なまちづくり

近年の気候変動による記録的豪雨などの災害に備えるため、防災重点ため池、井堰の改修、農業用ため池の劣化状況調査と決壊等による浸水被害を予測するハザードマップの作成を行います。

現在、防災拠点として市役所庁舎の耐震化を進めておりますが、災害備蓄品及び感染対策に対応する避難所用備品の整備など非常時のための備えも着実に進めてまいりますので、今後も継続、充実してまいります。



さらに、消防団、防災士の方々とも

協力し、自主防災組織の活動強化並びに地域防災力の充実を図り、市民の皆様への生命財産を守るべく引き続き災害対策の強化に取り組んでまいります。

健康・福祉の充実

健康増進については、特に高齢者の皆さんは、外出や社会的な交流活動が減少し、体を動かす機会が減っており健康状態の維持が心配されます。

昨年度作成した健康づくりに関するパンフレットとDVDを、健康教室や地域サロン等で活用しながら、市民の健康増進・維持に努めてまいります。



また、市長就任以来、生涯現役のまちづくりの口腔ケア事業を通して取り組んでまいりましたが、昨年その5年間の実績を報告書としてまとめました。口の健康が体全体の健康に通じることが実証されましたので、今後は、「あいうべ体操」や唾液腺マッサージなど口腔ケアに加え、万病のもとである歯周疾患と

の関連を調査することで、健康寿命の延伸につなげたいと考えています。

子育て支援については、「親子と地域」ともに元気に育つまち「ぶぜん」を基本理念として、子育て環境の整備、きめ細かな子育て支援に努めます。

また、引き続き安心して妊娠・出産・子育てができるよう「子育て世代包括支援センター」において様々な相談に応じるなどサポートしてまいります。

福祉については、新型コロナウイルス感染症の影響で、会社が倒産したり失業するなどして経済的に困窮する人が増加していますので、社会福祉協議会と連携して相談に応じ、国、県の施策も活用しながら生活支援に努めてまいります。

産業の振興

事業者の支援につきましては、緊急事態宣言の発出、営業時間短縮要請等、新型コロナウイルス感染症の影響が続いています。その対策として、昨年度に続き感染防止対策給付金の支給や子育て世帯に対するエール券の配布、プレミアム付きエール券の販売支援などをすでに行っておりますが、さらにプレミアム付き商品券事業など引き続き事業者支援、地域経済・市民の生活支援に取り組んでまいります。

雇用対策につきましては、経済活動が停滞する中、失業者の増加や逆に人手

不足となる企業があるなど雇用が不安定な状況が続いています。年間を通して求人情報を提供できるようウェブサイトを活用した求人、求職支援に取り組んでまいります。

農林水産業につきましては、豊前市の強みである海、山の恵みを活用し、福岡都市圏をはじめ、東京などの大都市圏の方々にも知っていただけるよう、さらなる魅力アップ、特産品化に努めてまいります。

また、生産性の向上及び持続的・安定的な農業生産体制を構築するため、今年度から三毛門地区の圃場整備事業に取り組んでまいります。

観光の活性化につきましては、今年度も引き続き大規模な集会の開催は困難な状況ではありますが、最大限の感染防止対策に努めながら各種イベントの開催を検討してまいります。

教育・文化の充実

教育の充実につきましては、昨年度整備したタブレット端末を活用してプログラミング教育などを行うことにより、子どもたちがICTを活用できる力を養うとともに、教育現場におけるICT環境の整備をすすめ、教育の質の向上と教員の働き方改革に努めてまいります。

また、大きな課題として市内の児童、生徒数は年々減少していますが、一方で、学校施設の老朽化に伴い維持、更新コス

トが増大しています。市内全体での学校規模の適正化と特色ある教育環境の整備など、豊前市「教育みらい」検討委員会の提言をもとに学校再編に重点的に取り組んでまいります。



文化の振興につきましては、昨年1月、国の重要無形民俗文化財に指定された大富神社の感応楽を含む全国の風流踊がユネスコの世界無形文化遺産に提案されました。来年にも世界遺産が豊前市に誕生する可能性が出てきましたので、この動きを注視しながら国、県とも連携し、必要な支援、観光等への活用などに取り組んでまいります。

豊前神楽も、宮崎県とともにユネスコ無形文化遺産を目指し、今年から全国組織の立ち上げに向けて動き出します。



また、地域の誇りである伝統芸能・文化財をさらに活用し、地域文化の振興に努めてまいります。

地域づくりの取り組みについては、高齢化等により地域の活力が低下しており、活動の受け皿である組織、人材の確保が問題となっています。本年4月に生涯学習課に地域づくり推進係を新設し、職員を配置して組織強化を行いました。市内全地区での地域づくり協議会の設立を目指し、地域の自主的、自立的な活動による活性化を支援するとともに、地域活動を担う人材の確保を支援してまいります。

行財政改革の推進

今年度は第4次行財政改革推進プラ

ンの初年度となります。今後、令和7年度までの5年間で計画期間とし、「市民協働の推進」「機能的行政の推進」「健全財政の推進」を計画の3つの方向性と位置づけて、取り組みを進めてまいります。

また、個人版のふるさと納税や企業版ふるさと納税などの自主財源の確保に努めてまいります。

令和元年度決算では経常収支比率が99.2%と、過去最悪の数値となり財政の硬直化が進んでいます。財政基盤の立て直しのためには、規律を緩めることなく収支の均衡を図り、これまで以上のコスト意識を持ち、広域で行っている一部事務組合や特別会計などについても聖域なく無駄を省き、さらなる見直しを進める必要があります。懸案となっているし尿処理の広域化についても、近隣自治体とよく協議し、最大限努力してまいります。

以上、申し上げましたとおり、私を先頭に全庁的に取り組んでまいりますので、議員並びに市民の皆様のお一層のご指導と温かいご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。